

第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章道路改良	製作3節工場	遮音壁支柱製作工	部材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所、任意の部分測定。	規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値
			工第9節カルバート	場所打函渠工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所測定。
	厚さ $t_1 \sim t_4$	$-20$					
	幅(内法) $w$	$-30$					
	高さ $h$	$\pm 30$					
	延長 $L$	$L < 20 \text{ m}$ $L \geq 20 \text{ m}$	$-50$ $-100$				
	第11節落石雪害防止工	1-11-4	落石防止網工	幅 $w$	$-200$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。	
				延長 $L$	$-200$		
				法長 $L$	$-100$	ロープ10本につき1箇所以上測定。	
				吊りロープ長 $L$	$-200$	雪崩予防柵工を適用	
1-11-5		落石防護柵工	高さ $h$	$\pm 30$	延長100mにつき1箇所以上測定。		
			延長 $L$	$-200$	端基礎5基につき1箇所以上測定。 中間基礎10基につき1箇所以上測定。		
			基礎幅 $w_1, w_2$	$-30$			
基礎高さ $h$		$-30$					
1-11-6		防雪柵工	高さ $h$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
			延長 $L$	$-200$			
	基礎幅 $w_1, w_2$		$-30$	基礎10基につき1箇所以上測定。			
	基礎高さ $h$		$-30$				
1-11-7	雪崩予防柵工	高さ $h$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		延長 $L$	$-200$				
		基礎幅 $w_1, w_2$	$-30$	基礎10基につき1箇所以上測定。			
		基礎高さ $h$	$-30$				
		アンカー打込み $\ell$	$-10\%$	アンカー10本につき1箇所以上測定。			
カー長埋込み $\ell$	$-5\%$						
第12節遮音壁工	1-12-4	遮音壁基礎工	幅 $w$	$-30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 単独基礎の場合は、落石防護柵工を適用。		
			高さ $h$	$-30$			
			延長 $L$	$-200$			
	1-12-5	遮音壁本体工	支柱間隔 $w_1, w_2$	$\pm 15$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
			支柱すれ $a$	10			
支柱ねじれ $b-c$	5						
支柱倒れ $d$	$h \times 0.5\%$						
高さ $h$	$+30, -20$						
延長 $L$	$-200$						

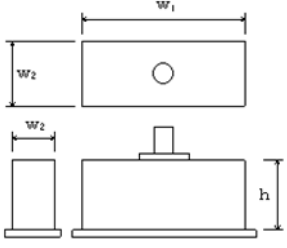
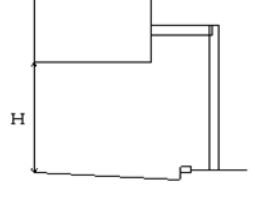
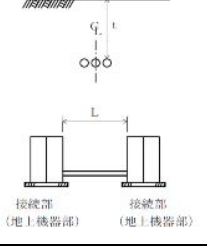
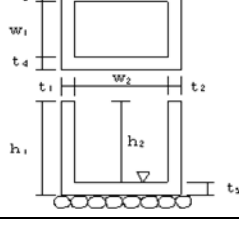
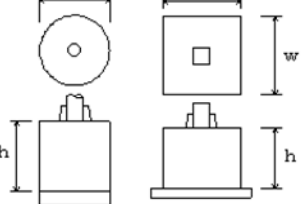
第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

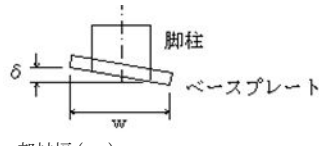
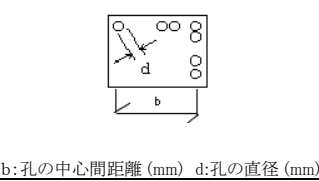
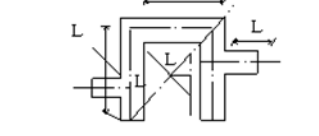
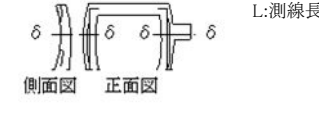

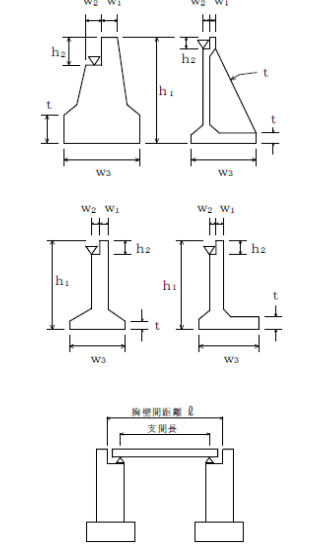
番 号	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )			
第2章 第4節 舗装工	2-4 歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基 準 高 ▽	±50	—	基準高は片側延長100mに1箇所以上の割合で測定。 幅は、片側延長200mに1箇所以上の割合とし、厚さは、片側毎右記により測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均値は適用しない。  コア採取について ①橋面舗装等でコア採取により、床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 ②維持工事及び1車線林道においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 ③厚さ管理基準 1000㎡未満 N=1箇所以上 1000㎡毎に N=1箇所以上 (例 1000㎡は2箇所を測定) ④厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。  なお、コア採取位置は、施工場所が2車線以上の場合は、各車線の中央で採取。1車線しかない場合は、車線中央1/4付近左右千鳥に採取。	
		厚 さ	t < 15cm	-30			
			t ≥ 15cm	-45	-15		
		幅	-100	—			
	歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	-9	-3	幅は、片側延長200m毎に1箇所以上の割合で測定とし、厚さは、片側毎右記により測定。		
		幅	-25	—			

第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第2章舗装	第5節排水	2-5-9 排水性舗装用路肩排水	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。		
		延長 L	-200				
第6節縁	2-6 中央分離帯工	基準高	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		幅 W	-20				
		高さ H	-40				
		延長 L	-200				
第7節踏掛版工	2-7-4 踏掛版工 (コンクリート工)	基準高	$\pm 20$	図面の表示箇所で、任意の部分を測定。			
		各部の厚さ	$\pm 20$				
		各部の長さ	$\pm 30$				
		(ラバーシュー) 各部の長さ	$\pm 20$				
		(アンカーボルト) 厚さ	-				
中心のずれ	$\pm 20$						
アンカー長	$\pm 20$						
第9節標識工	2-9-4 大型標識工 (標識基礎工)	幅 $w_1, w_2$	-30	基礎5基につき1箇所以上測定。			
		高さ h	-30				
第12節道路付属施設工	2-12-5 ケーブル配管工	設置高さ H	設計値以上	基礎5基につき1箇所以上測定。			
第12節道路付属施設工	2-12-5 ケーブル配管工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長100mにつき1箇所以上測定。			
		延長 L	-200				
第12節道路付属施設工	2-12-5 ケーブル配管工 (ハンドホール) 電線共同溝 (ハンドホール工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	5基につき1箇所以上測定。 ※印は、現場打部分のある場合			
		※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20				
		※幅 $w_1, w_2$	-30				
		※高さ $h_1, h_2$	-30				
第12節道路付属施設工	2-12-6 照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	10基につき1箇所以上測定。			
		高さ h	-30				

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第3章橋梁下部	第3節工場製作工	鋼製橋脚製作工	部材	脚柱とベースプレートの鉛 $\delta$ (mm)	w/500	図面の寸法表示箇所にて測定。	 脚柱 ベースプレート w:部材幅 (mm)	
				ベースプレート	孔の位置	$\pm 2$	図面の寸法表示箇所にて測定。	 b:孔の中心間距離 (mm) d:孔の直径 (mm)
					孔の径 d	0~5	図面の寸法表示箇所にて測定。	
				仮組立時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm 10 \dots$ $10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20) / 10) \dots$ $20m < L$	両端部及び片持り部で、任意の部分を測定。	
			はりのキャンバー及び柱の曲がり $\delta$ (mm)		L/1,000	主構の格点で、任意の部分を測定。	 L:測線長	
			柱の鉛直度 $\delta$ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H \dots H > 10$	柱及び片持り部で、任意の部分を測定	 H:高さ (m)		
			第6節橋台工	橋台躯体工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$	2基につき1箇所以上測定。図面の寸法表示箇所にて、任意の部分を測定。	
					厚さ t	-20		
					天端幅 w <sub>1</sub> (橋軸方向)	-10		
					天端幅 w <sub>2</sub> (橋軸方向)	-10		
敷幅 w <sub>3</sub> (橋軸方向)	-50							
高さ h <sub>1</sub>	-50							
胸壁の高さ h <sub>2</sub>	-30							
天端長 l <sub>1</sub>	-50							
敷長 l <sub>2</sub>	-50							
胸壁間距離 l	$\pm 30$							
支間長及び中心線の変位	$\pm 50$							
アンカーボルトの箱抜き								
支承	計画高	+10~-20						
	平面位置	$\pm 20$						
	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50 以下						

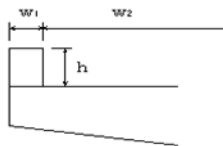
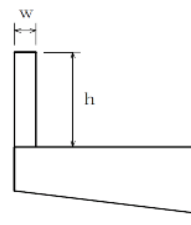
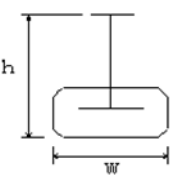
第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要			
第3章 橋梁下部	第7節 RC橋脚工	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高	±20	2基につき1箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。				
			厚さ	t				-20	
			天端幅	w <sub>1</sub>				-20	
			(橋軸方向)						
			敷幅	w <sub>2</sub>				-50	
			(橋軸方向)						
			高さ	h				-50	
			天端長	l <sub>1</sub>				-50	
			敷長	l <sub>2</sub>				-50	
			橋脚中心間距離	l				±30	
			支間長及び中心線の変位					±50	
			アンカーボルトの箱抜き						
			支承	計画高				+10~-20	
	平面位置	±20							
	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下							
		橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高	±20	2基につき1箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。				
			厚さ	t				-20	
			天端幅	w <sub>1</sub>				-20	
			敷幅	w <sub>2</sub>				-20	
高さ			h	-50					
長さ			l	-20					
橋脚中心間距離			l	±30					
支間長及び中心線の変位				±50					
アンカーボルトの箱抜き									
支承			計画高	+10~-20					
			平面位置	±20					
			アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下					
第8節 鋼製橋脚工	3-8-9	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準高	±20	2基につき1箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。				
			幅	w				-50	
			高さ	h				-50	
			長さ	l				-50	
		橋脚フーチング工 (門型)	基準高	±20	2基につき1箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。				
			幅	w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>				-50	
			高さ	h				-50	
	3-8-10	橋脚架設工 (I型・T型)	基準高	±20	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。				
			橋脚中心間距離	l				±30	
			支間長及び中心線の變位					±50	
		橋脚架設工 (門型)	基準高	±20	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。				
			橋脚中心間距離	l				±30	
			支間長及び中心線の變位					±50	
3-8-11	現場継手工	現場継手部のすき間 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> (mm)	±5	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。					

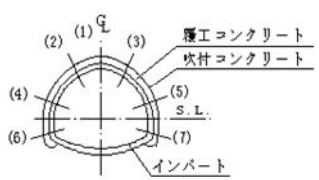
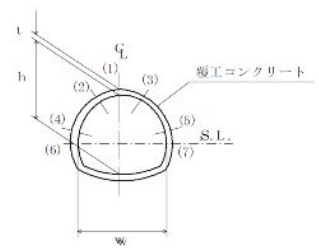
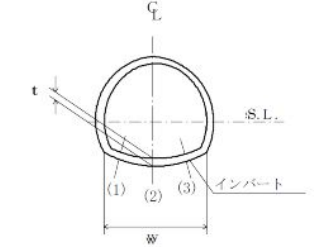
第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第4章 鋼橋上部	第3節 工場製作工	4-3-9 橋梁用高欄製作工	部材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
	第5節 鋼橋架設工	4-5-10 支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1)		$\pm 5$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 B: 支承中心間隔(m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La、Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量 $\delta$ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
			可動支承の移動可能量注2)		設計移動量 $\pm 10$ 以上			
			支承中心間隔 (橋軸直角方向)		$\pm 5$ かつ $4 + 0.5 \times (B - 2)$			
			平下 度 沓 の 水	橋軸方向				1/100
				橋軸直角方向				1/100
			可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上のずれ の相対誤差					5
		可動支承の移動量注3)		温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上				
		4-5-10 支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)		$\pm 5$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La、Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量 $\delta$ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
可動支承の移動可能量注2)			設計移動量 $\pm 10$ 以上					
支承中心間隔 (橋軸直角方向)			$\pm 5$ かつ $4 + 0.5 \times (B - 2)$					
平下 度 沓 の 水	橋軸方向			1/300				
	橋軸直角方向			1/300				
可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上のずれ の相対誤差				5				
可動支承の移動量注3)		温度変化に伴う移動量 計算値の1/2以上						
第4章 鋼橋上部	第8節 橋梁付属物工	4-8-1 地覆工	地覆の幅 $w_1$		$-10 \sim +20$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
			地覆の高さ $h$		$-10 \sim +20$			
			有効幅員 $w_2$		$0 \sim +30$			
	4-8-3 落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長		設計値以上	10本につき1本以上の割合で測定。 D: アンカーボルト径(mm)			
		アンカーボルト定着長		$-20$ 以内かつ $-1D$ 以内				
	4-8-6 橋梁用防護欄工	4-8-7 橋梁用高欄工	幅 $w$		$-5 \sim +10$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
			高さ $h$		$-20 \sim +30$			
	第5章 コンクリート橋上部	第6節 プレキャスト プレキャスト 橋	5-6-2 プレキャスト桁製作工 (現場)	幅 $w$		$\pm 5$	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 $\ell$ : スパン長	
				高さ $h$		$+10$ $-5$		
桁長 $\ell$					$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$			
スパン長					かつ $-30$ mm以内			
横方向最大タワミ					$0.8 \ell$			

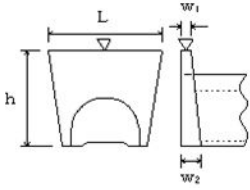
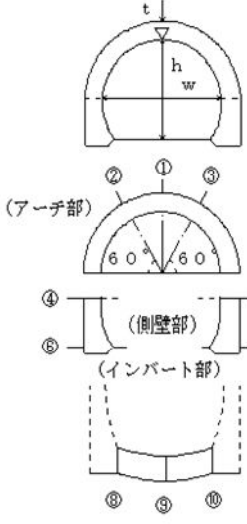
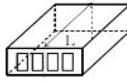
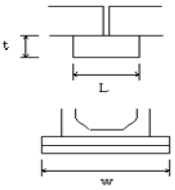
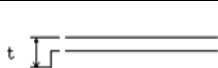
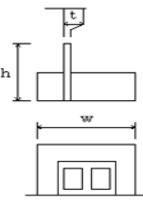
第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第6章 トンネル(NATM)	第4節 支保工	6-4-3 NATM 吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。 ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長100mにつき図に示す(1)~(7)及び断面変化点の任意の検測孔で、3箇所を測定。 100m以下については、2箇所以上測定。  注)良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。			
	6-4-4 NATM ロックボルト工	位置間隔 角度 削孔深さ 孔径 突出量	— — — — プレート下面から10cm以内	施工延長100mにつき1箇所以上測定。 1箇所当たりの本数は、断面全体を測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。				
第5節 覆工	6-5-3 NATM 覆工コンクリート工	基準高(拱頂)	±50	延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。 なお、以下の場合には、左記の規格値は、適用除外とする。  ・良好な地山における岩又は、吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。  ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。  ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出部。				
	6-5-4 NATM 側壁コンクリート工	幅 w (全幅) 高さ h (内法) 厚さ t 延長 L	—50 —50 設計値以上 —					
6-5-5 NATM 床版コンクリート工	幅 w 厚さ t	—50 —30	施工延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。					
第6節 インバート工	6-6-4 NATM インバート本体工	幅 w (全幅) 厚さ t 延長 L	—50 設計値以上 —				延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。	

第7編道路編

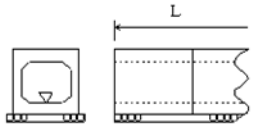
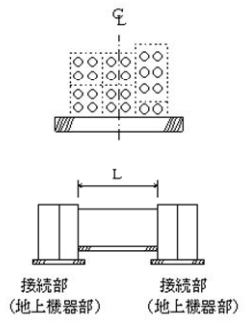
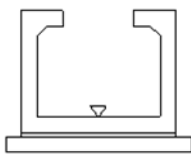
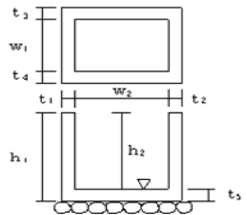
出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第6章トンネル(NATM)	第8節抗門工	6-8-4 NATM 抗門本体工	基準高 $\nabla$ 幅 $w_1, w_2$ 高さ $h < 3m$ 高さ $h \geq 3m$ 延長 $L$	$\pm 50$ -30 -50 -100 -200	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
	6-8-5 NATM 明り巻工	基準高(拱頂) 幅 $w$ (全幅) 高さ $h$ (内法) 厚さ $t$ 延長 $L$	$\pm 50$ -50 -50 -20 -	延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。			
第11章共同溝	第6節現場打構築工	11-6-2 共同溝 (現場打躯体工)	基準高 $\nabla$ 厚さ $t$	$\pm 30$ -20	延長100mにつき1箇所以上測定。		
		12-5-4 電線共同溝 (現場打ボックス工) (特殊部)	内空幅 $w$ 内空高 $h$ ブロック長 $L$	-30 $\pm 30$ -50			
	11-6-4 共同溝 (カラー継手工)	11-6-5 共同溝 (防水工)	厚さ $t$	-20	図面の寸法表示箇所、任意の部分を測定。		
			幅 $w$	-20			
			長さ $L$	-20			
		共同溝 (防水保護工)	厚さ $t$	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で、任意の部分測定。		
共同溝 (防水壁)	高さ $h$ 幅 $w$ 厚さ $t$	-20 $\pm 50$ -20	図面の寸法表示箇所、任意の部分測定。				



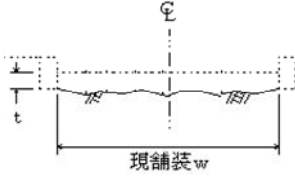
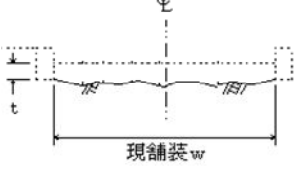
第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第11章共同溝 第6節プレキャスト	11-7-2 共同溝 プレキャスト躯体工	基準高 $\nabla$	±30	延長100mにつき1箇所以上測定。		
		延長 L	-200			
第12章電線共同溝工	12-5-2 管路工 (管路部)	埋設深	0～+50	延長100mにつき1箇所以上測定。		
		延長 L	-200			
	12-5-3 プレキャストボックス工 (特殊部)	基準高 $\nabla$	±30	延長100mにつき1箇所以上測定。		
第6節付帯設備工	12-6-2 ハンドホール工	基準高 $\nabla$	±30	5基につき1箇所以上測定。 ※印は、現場打部分のある場合		
		※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
		※幅 $w_1, w_2$	-30			
		※高さ $h_1, h_2$	-30			

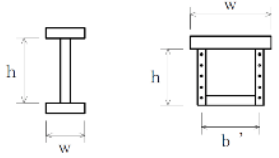
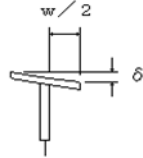
第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
			個々の測定値(X)	平均の測定値(X <sub>10</sub> )			
第14章 第3節 道路維持	14-3-5	切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	掘削厚さは1000㎡につき1箇所以上、現舗装高さとは切削後の基準高の差で算出する。 幅は、延長200mに1箇所の割とし、厚さは、下記により測定。  厚さ管理基準 1000㎡未満 N=1箇所以上 1000㎡毎に N=1箇所以上 (例 1001㎡は2箇所を測定)  厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。なお、検査員が必要と認める場合は、掘起し等による。		<p>なお、コア採取の位置は、施工箇所が2車線以上の場合には各車線の中央で採取。</p> <p>1車線しかない場合は、車線中央4分の1付近左右千鳥に採取。</p>
	幅 w	-25	延長 L	-100			
	14-3-7	路上再生工	路厚さ t	-30	幅は、延長200mに1箇所割とし、厚さは、下記により測定。  厚さ管理基準 1000㎡未満 N=1箇所以上 1000㎡毎に N=1箇所以上 (例 1001㎡は2箇所を測定)  厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。なお、検査員が必要と認める場合は、掘起し等による。		
		路盤幅 w	-50	工延長 L			-100

第7編道路編

出来形検査基準規格値(mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要
				鋼げた等	トラス・アーチ等		
第16章 道路修繕	第3節 工場製作工	16-3-4 桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	±2……w ≤ 0.5 ±3……	主げた・主構	各支点および各支間中央付近で、任意の部分測定。	 I型鋼げた トラス弦材
				±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w	床組など	中央付近で、任意の部分測定。	
			フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	主げた	支点および支間中央付近で、任意の部分測定。	
圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000	主げた	支点および支間中央付近で、任意の部分測定。	ℓ : 部材長(mm)	